

氏名 岩 藤 真 治

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 810 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和 51 年 12 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 乳癌に対する Prolactin の意義に関する研究
第 1 編 乳癌患者と Prolactin の関連性について
第 2 編 マウス男性ホルモン依存性乳癌と Prolactin について

論 文 審 査 委 員 教授 砂 田 輝 武 教授 関 場 香 教授 大 藤 眞

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第 1 編 乳癌患者と Prolactin の関連性について

人乳癌組織 slice, prolactin と ^{32}p を incubate した核酸代謝に対する prolactin の影響を観察した。prolactin で核酸代謝の高くなる prolactin 依存性乳癌は予後が良く, 再発した場合も治療に反応し長期生存が期待できる。prolactin 非依存性乳癌は, 再発死が多く予後が悪い。

第 2 編 マウス男性ホルモン依存性乳癌と Prolactin について

シオノギ carcinoma-115 を用いて下垂体 prolactin の定量を行い, testosterone との関連性について依存性の面より検索した。シオノギ carcinoma-115 は prolactin, testosterone に依存性をもつ癌で, この 2 つのホルモンによって増殖する。下垂体中の prolactin 量は腫瘍増殖期に増加する。prolactin, testosterone を投与して腫瘍のホルモン依存性は消失するが, 次代・次々代には元の依存性にかえる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は乳癌に対する Prolactin の意義について研究したものであるが, とくにいまだ証明されていなかったヒト乳癌と Prolactin との直接的な関連性について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。